

MOL Report



うねりを、チャンスに。

From Uncertainty, Opportunity.

環境変化が激しさを増すなか、
私たちはいま先の見えない不確実性の時代を生きています。
商船三井は、持てる力をひとつにして新たな可能性を切り拓き、
世界の発展に貢献できる強くしなやかな存在をめざします。

特集
Feature

MOLグループの フェリー事業

平成29年度
中間報告書

2017年4月1日～
2017年9月30日

コンテナ船 [MOL TRIUMPH]

全長：400m
全幅：58.8m
型深：32.8m
コンテナ積載数：20,170TEU



代表取締役
社長執行役員 池田潤一郎

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、平成29（2017）年度中間期（第2四半期累計期間）の業績についてご報告申し上げます。

当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しいものがありますが、前年度に断行した構造改革の成果が表れ、当中間期には前年同期比で増収、また営業利益、経常利益で増益を達成いたしました。4月には、「競争力No.1の事業の集合体」である商船三井グループを目指し、経営計画「ローリングプラン2017」を策定し、そこで示した事業ポートフォリオの変革と財務体質の改善に向けた取り組みを着実に進めております。

定期コンテナ船事業統合につきましては、川崎汽船株式会社、日本郵船株式会社との合併会社による平成30（2018）年4月のサービス開始に向けた準備を着実に進めるとともに、営業力強化に向けた施策を実行しております。

今後とも「One MOL」の下、グループ一丸となって経営基盤の強化と収益向上に努めて参りますので、株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成29年11月

Q1 当中間期の業績と配当についてお聞かせください

A1 親会社株主に帰属する四半期純利益131億円。同当期純利益120億円の見通し
中間配当金1株当たり1円。期末配当金1株当たり10円（株式併合考慮後）を予定

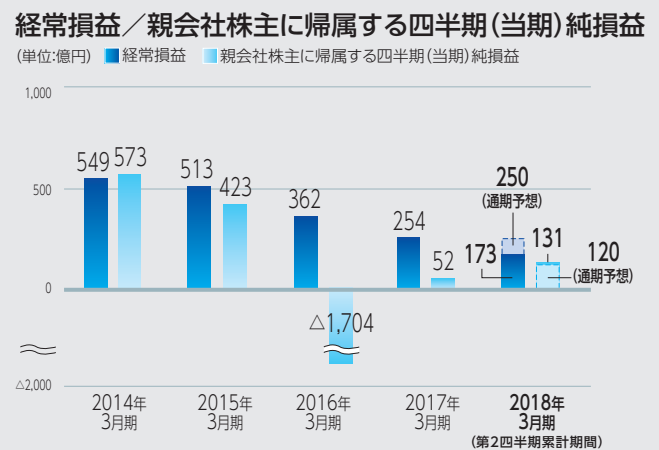
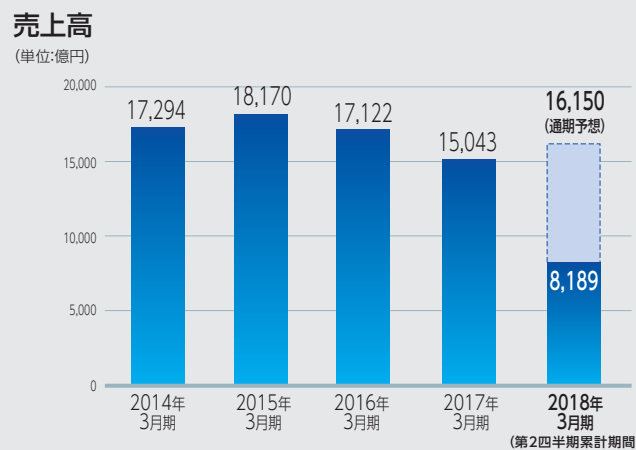
当中間期の連結業績は、期初の予想を上回り、売上高8,189億円、営業利益111億円、親会社株主に帰属する四半期純利益131億円となりました。前年同期比では、売上高は大幅な増収、また営業損益は黒字転換を果たしました。

第3四半期以降も厳しい事業環境が予想されるものの、引き続き収益向上に努め、通期の連結業績では、売上高16,150億円、営業利益200億円、経常利益250億円、親会社株主に帰属する当期純利益は120億円を予想しております。

中間配当は、以上の業績と連結配当性向20%を目安とする従来の方針を勘案し、1株当たり1円といたします。

期末配当につきましては、10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施しておりますので、当該株式併合後の株式数にもとづき、1株当たり10円^(※)と予定しております。

※株式併合前の株式数を前提とすると、1株当たり1円となり、1株当たり年間配当金は2円と予定しております。



Q2 事業環境はいかがでしたか

A2 緩やかな世界経済の拡大
原油船市況はやや低迷するも、ドライバルク船・コンテナ船市況は回復傾向

当中間期における世界経済は、米国では景況感の改善、企業収益の拡大持続等によって設備投資も増加基調を維持し、安定した雇用・消費の増加を支えに、緩やかながら順調に拡大しました。欧州では、堅調な景気回復が継続し、雇用環境の改善に伴う個人消費の底堅い回復に支えられ、緩やかな成長が続きました。中国では、世界経済の回復を背景に拡大基調だった輸出の伸びがやや減速傾向となり、インフラ投資も高水準ながら鈍化傾向となりましたが、良好な雇用・所得環境を背景に、個人消費が引き続き景気を下支えし、景気は緩やかな減速となりました。わが国では、企業収益の改善に加え、堅調な雇用・所得情勢を受けて、個人消費も底堅く推移し、景気は緩やかな回復基調が続きました。

海運市況のうち、ドライバルク船市況は、東豪州で発生したサイクロンの影響長期化、ブラジル積貨物の低迷などの影響もありましたが、堅調な石炭需要、及び南米東岸穀物貨物の荷動きにより市況が改善し、底堅く推移しました。原油船市況は、OPEC加盟国減産の浸透や、春・夏場の不需求期を迎えたこと、また、新造船が着々と竣工したこと等により低位で推移しました。コンテナ船市況については、北米航路において、堅調な米国経済に支えられアジア出し荷動きは過去最高を記録し、欧州航路においてもアジア出し荷動きが堅調に推移しました。しかしながら船舶の大型化等により供給も増大した為、夏場繁忙期のスポット運賃は、伸び悩みました。

Q3 第3四半期以降の見通しをお聞かせください

A3 世界経済の拡大基調に伴い、海運市況も堅調に推移すると予想

第3四半期以降の世界経済は、緩やかな拡大が続くと予想しております。米国や欧州などの先進国では引き続き景気が堅調に推移し、中国の景気減速も緩やかに進行すると見込まれます。しかしながら、欧米での金融環境の変化や朝鮮半島の緊張による地政学リスクの高まり等には注視する必要があります。予断を許さぬ状況が続くと見ております。

ドライバルク船市況については、中国国慶節前の上落幅が限定的に留まったことや、穀物貨が当面は堅調に出てくると思われることから、年内は堅調に推移するものと想定しております。原油船市況は、足元では貨物需要増等の影響で上昇しており、今後も冬場の需要期を迎え堅調に推移すると思われます。石油製品船市況は、冬場の需要期を迎え、改善していくと見込んでおります。コンテナ船市況については、夏場繁忙期からの反動により10月から一時的な荷動きの停滞はあるものの、例年に比べアジア出し荷動き需要は全航路で堅調に推移し、スポット運賃についても早めに底を打ち、中国旧正月休暇前の駆け込み需要による一定の上昇を見込んでおります。足下の荷動き需要は各方面とも堅調に推移していますが、引き続き世界経済、及び荷動きの動向に注視が必要であると見ております。

当中間期決算および通期の見通し

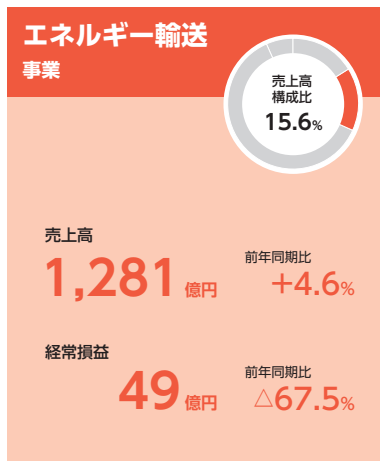
	当中間期	前年同期比 増減額/増減率
	通期予想	前期比 増減額/増減率
売上高	8,189億円	1,053億円/ 14.8%
	16,150億円	1,106億円/ 7.4%
営業利益	111億円	131億円/ -%
	200億円	174億円/ 681.9%
経常利益	173億円	118億円/ 215.5%
	250億円	△4億円/ △1.7%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	131億円	△29億円/ △18.3%
	120億円	67億円/ 128.3%
為替レート	¥110.82/US\$	¥3.84/US\$
	¥110.00/US\$ (下期前提)	
船舶燃料油価格	US\$322/MT	US\$81/MT
	US\$350/MT (下期前提)	

※ 当社は、2017年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施いたしました。グラフ上の1株当たり年間配当金(2018年3月期通期予想)は、当該株式併合前の金額を記載しております。



ケーブルサイズ市況は、3月下旬に東豪州で発生したサイクロンの影響による石炭出荷低迷の長期化、ブラジル積鉄鉱石荷動き低迷等の影響により期初から7月にかけて大幅に下落しましたが、ブラジル積鉄鉱石出荷が増加したこと等を背景に7月下旬頃より反発。9月には再び期初の水準にまで上昇しました。パナマックス市況も4月以降低迷しましたが、7月下旬より

南米東岸積穀物貨の堅調な荷動きにより上昇しました。ハンディマックス市況は、中国・インドでの石炭輸入増加が7月以降の市況上昇を後押ししました。このような市況環境の中、夏場以降の市況の改善に加え、継続的なコスト削減に取り組んだこと等により、ドライバルク船部門では前年同期比で増益となりました。



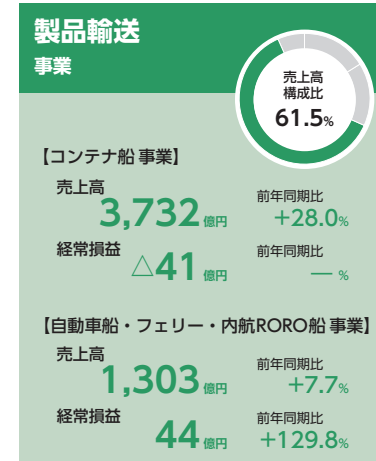
【油送船】
原油船市況は、OPEC加盟国減産の浸透や、春・夏場の不需用期を迎えたこと、また、新造船が着々と竣工したこと等により低位で推移しました。石油製品船市況は、米国を直撃したハリケーンの影響による一時的な高騰はあったものの、荷動きの低迷や、新造船供給圧力等により低調に推移しました。LPG船市況は、堅調な荷動きを背景に回復する局面もありましたが、LPG価格差の縮小によって米国からアジア向け荷動きが低迷し、下落傾向となりました。

このような市況環境の中、長期契約の安定的な履行に加え、プール運航による運航効率の改善やコスト削減にも継続して努め、当中間期において黒字を計上しました。

【LNG船・海洋事業】
LNG船部門においては、中長期契約の下での運航を主としており、短期市況の低迷にも拘らず、新規に竣工した3隻を含めて当中間期においても安定した利益を計上しました。海洋事業においてもFPSO1基が新規稼働し、サブシー支援船の収益も順調に寄与しており、安定的に利益を計上しました。



写真提供：三井海洋開発



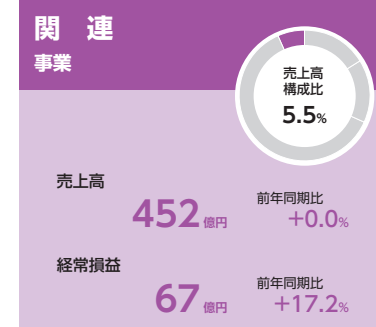
【コンテナ船】
コンテナ船市況については、アジア出し荷動きが全般的に堅調に推移しました。特に北米航路においては堅調な米国経済に支えられ過去最高を記録しました。一方で、パナマ運河拡張を背景とした大型船投入による供給も増大した結果、需給は引き締まらず、夏場繁忙期におけるスポット運賃の上昇は限定的なものとなりました。欧州航路においても同様にアジア出し荷動きは堅調に推移したものの、スポット運賃の上昇は見られませんでした。南米東岸航路においては一段と回復するアジア出し荷動きにあわせて各社が夏場繁忙期に臨時便を運航した結果、春先より高値圏で推移していたスポット運賃は8月から下落傾向を辿りました。このように夏場繁忙期のスポット運賃は全航路に渡り伸び悩んだものの、欧州出しアジア向け復航荷動きが増加したこと、年初から上昇して更改された年間契約運賃による貢献、及びイールドマネジメント強化による空コンテナ回送費等の運航コスト削減に努めたことから前年同期比では損失が縮小しました。

ドパターンの変化に対応した運航効率の改善による収支の向上に努め、前年同期比で損益は改善して、当中間期においても黒字を計上しました。

【フェリー・内航RORO船】
フェリー・内航RORO船事業は、トラックドライバー不足を背景にした貨物輸送需要が継続しており、荷動きは堅調に推移しました。旅客についても本年5月に大洗～苫小牧航路で新造船が就航した効果などで順調に推移しました。この結果、台風による複数便の欠航にも拘らず、前年同期並みの利益を確保しました。



【自動車船】
完成車の荷動きは、米国向けが引き続き堅調に推移しましたが、資源国・新興国向けは資源価格の低迷を背景に本格的な回復の兆しは見られませんでした。継続して減船やトレー



客船事業は、にっぽん丸の乗客数は好調を維持しているものの、台風によるクルーズの催行中止等の影響で、前年同期比では減益となりました。不動産事業においては、首都圏を中心に堅調な賃貸オフィスマーケットに支えられ、当社グループ

の不動産事業の中核であるダイビル(株)の売上が増加したこと等により、前年同期比で増益となりました。その他曳船や商社等の業績は総じて堅調に推移し、関連事業セグメント全体では前年同期比で増益となりました。



新造フェリー「さんふらわあ ふうの」

商船三井グループには、フェリー運航会社が3社あり、年間110万人を超えるお客様にご利用いただいています。

フェリーは、地球環境保全に寄与する「モーダルシフト」の担い手として、近年重要性が高まっています。また、「船旅」としての魅力も非常に注目されており、船内のさまざまなタイプの客室・レストラン・浴室・娯楽施設・展望デッキなどが楽しい旅を演出し、他の交通機関では味わうことのできない「ゆとり・やすらぎ」をつくり出しています。

多くのお客様に、気軽でゆったりとした船旅「カジュアルクルーズ」をお楽しみいただけるよう、商船三井グループでは大型新造フェリーを順次就航させており、2017年5月・10月には、首都圏(大洗)⇄北海道(苫小牧)航路に「さんふらわあ ふうの」「さんふらわあ さっぽろ」の2隻が就航。また、2018年には大阪⇄鹿児島(志布志)航路に「さんふらわあ さつま」「さんふらわあ きりしま」の2隻が新たに就航する予定です。個室やパブリックスペースを増やすなど、より充実した「くつろぎ」の船内空間をご用意しております。これを機に是非、商船三井グループのフェリーをご利用いただけますと幸いです。

関係者一同、皆様のご乗船をお待ちしております。



③ (株)フェリーさんふらわあ「さんふらわあ あいぼり」



② (株)フェリーさんふらわあ「さんふらわあ ごーど」



① 商船三井フェリー(株)「さんふらわあ ふうの」



⑤ (株)名門大洋フェリー「フェリーおおさかⅡ」



④ (株)フェリーさんふらわあ「さんふらわあ きりしま」

新造フェリー続々登場！

NEW

「さんふらわあ ふうの」 「さんふらわあ さっぽろ」就航!!

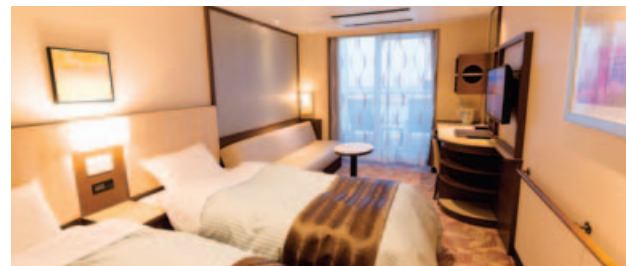
首都圏(大洗)～北海道(苫小牧)航路 2017年5月・10月 デビュー



プロムナード



スイート



プレミアム

新造船の意匠デザイナーには、客船「にっぽん丸」の改装を手掛けた渡辺友之氏を起用。新しい「さんふらわあ」の船上で、幅広い世代のお客様が「船旅」の「夢」「楽しさ」「くつろぎ」、そして「海」を感じられるデザインをめざしています。

コンセプト

- 船旅の楽しさの追求** 上級客室にはバルコニーを新設。ペット同伴対応の個室及びドッグランや展望浴場など設備充実で船旅がさらに楽しく。
- 居住空間の充実** 個室比率を上げ、よりプライベートでくつろげる空間に。パブリックラウンジも片舷吹き抜けでゆったりと。
- 人にも環境にもやさしく** 新技術の導入により高速化と環境性能が大幅に向上。安全設備や船内バリアフリー対応もさらに充実。



レストラン



キッズランド



ドッグラン



2018年登場！

NEW

「さんふらわあ さつま」 「さんふらわあ きりしま」就航!!

大阪～鹿児島航路 2018年 新造船デビュー
(志布志)

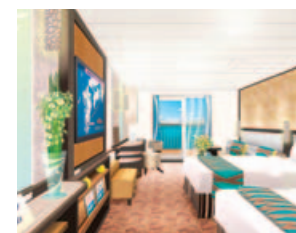
3フロア吹抜けのエントランス、ゆったりとしたレストラン、全室トイレ・シャワー完備の個室など、くつろぎの充実した船旅をお楽しみいただけます。



エントランス 吹抜け



レストラン



スイートルーム



バルコニー

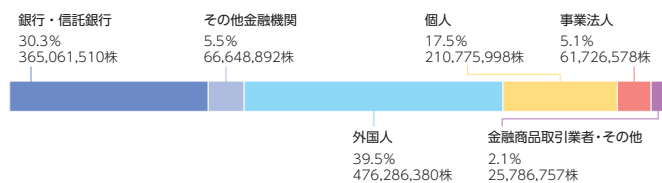
会社概要 (2017年9月30日現在)

商号	株式会社 商船三井 (証券コード：9104) Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.
本社・本店	〒105-8688 東京都港区虎ノ門二丁目1番1号
資本金	65,400,351,028円
従業員	968人 (陸上676人 海上292人)

株式の状況 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	3,154,000,000株
発行済株式の総数	1,206,286,115株
株主数	93,835名

所有者別の状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会	毎年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
上場金融商品取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-782-031 (フリーダイヤル)
インターネットホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告の方法	当社ホームページに掲載します (URL[アドレス]は以下の通りです)。 http://www.mol.co.jp/ 但し、事故、その他やむを得ない事由によりホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載します。

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

株主様向けアンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9104

いいかぶ

検索

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本中間報告書が
お手元に到着してから約2ヶ月間
(2018年1月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900 (平日 10:00～17:30)
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

株主優待制度のご案内

当社株主の皆様へ、「にっぽん丸」へのご優待券を年2回(6月下旬、11月下旬)送付しております。当社株主の皆様におかれましては、この機会にご優待券をご利用の上、「にっぽん丸」でゆったりとくつろぐ船旅をお楽しみいただければ幸いです。

9月30日現在のご所有株式数	ご優待券枚数
1,000株～4,999株	2枚
5,000株～9,999株	4枚
10,000株以上	6枚

(有効期間：2018年1月1日～2018年12月31日)

平成29年10月1日付にて実施の株式併合に伴い、次回の送付(平成30年6月下旬)より優待の割当基準となる所有株式数は以下の通りとなります。(株主優待への実質的な影響はございません。)

ご所有株式数	ご優待券枚数
100株～499株	2枚
500株～999株	4枚
1,000株以上	6枚

1クルーズお一人様2枚まで「ご優待券」をご利用いただけます。

- お一人様1枚ご利用の場合、旅行代金を10%割引させていただきます(但し、30日以上クルーズについては3%割引)。
- お一人様2枚ご利用の場合、旅行代金を20%割引させていただきます(但し、30日以上クルーズについては6%割引)。
- ▶「にっぽん丸」クルーズにつきましては、次の商船三井客船株式会社のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponmaru.jp>

クルーズデスク 受付時間 月～金 9:30～17:00 (土・日・祝休み)

☎0120-791-211

携帯・PHSからは右記番号におかけください。TEL:03-5114-5280



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。